

(別添)

農作業安全に関する 優良事例集

令和7年2月26日 農林水産省

農作業安全に関する優良事例

都道府県名	北海道	区分	市町村	実施主体名	倶知安町
取組の概要	⑤実際の農業現場における取組				
実施時期	令和5年度5月・9月～10月、令和6年度5月～6月・9月～10月				

○ 取組の内容

近年、農作業中の死亡事故者数は減少はしているものの、負傷事故者数は一定を保っており、死亡事故者に比べて現象の傾向がみられない状況。

これを受け、倶知安町では農作業安全パトロールを各地域（末広地区から樺山地区まで）、春と秋に3回ずつ、計6回行い、農業者に対して農作業の安全を促すこととした。

パトロールは、役場職員とJA職員各1名ずつが車両で農作業安全を促す音源を流しながら実施した。

また、農作業安全の定着のために、パトロール時に農業安全旗や農水省から提供されたステッカーを各約150枚配布した。



年度別事故発生状況の推移(死亡・負傷)
【北海道】



実際に配布したステッカー

○ 取組の効果や今後の課題

前年度の同時期と比較すると倶知安町の事故件数が減少した（5件→2件）。

また、農作業安全旗を配布したところ、農業者からの評判がよく、パトロール期間外でも「農作業安全旗が○枚欲しい」と問い合わせがある。

最近では、倶知安町での農作業死亡者は出ていないので、今後も農作業安全パトロールの実施を継続して農作業負傷者の減少も目指していく。



倶知安町農業振興協議会で作成している農作業安全旗

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	北海道	区分	市町村	実施主体名	小清水町
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和6年5月～7月			

○ 取組の内容

○ヒグマの出没数が増加、民家の敷地内に侵入する事案が発生したためＪＡからの要望もあり、農作業時におけるヒグマ対策講習会を開催した。

○ヒグマ出没時の各関係機関の対応の説明及び遭遇時の対処法、日常からできる対策、熊の生態、熊スプレーの使用方法について講習を行った。



ヒグマ等が侵入した後



熊スプレー

○ 取組の効果や今後の課題

○熊スプレーの購入やヒグマの出にくい環境づくりにつながるなど、農業者の意識の向上につながった。

農作業安全に関する優良事例

都道府県名	北海道	区分	都道府県	実施主体名	オホーツク総合振興局産業振興部農務課
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和5年11月29日				

○ 取組の内容

○オホーツク地域の農作業事故は年間369件も発生し（H29～R3の平均）、H21年の453件より減少していますが、就業者千人あたりの事故件数は北海道の平均よりも多く、安全意識の向上が求められている。

○このため、オホーツク振興局は、管内生産者を対象に以下の研修を実施。

- ・労務管理研修

「安全な労働環境づくりのためのGAPと労務管理について」

- ・応急救護研修「救命講習」座学及びAEDなどの実技研修

- ・農作業安全研修

（1）農業経営を支える農作業事故対策の考え方及びVRゴーグルを用いた農作業事故体験

（2）自動操舵トラクタの安全確認

（3）トラクタによる死角確認及び基本操作

（4）トラクタによる転倒角度体験装置及びシートベルト装着推進



AEDの実技研修の様子



VRゴーグルによる
農作業事故体験研修

○ 取組の効果や今後の課題

○ 座学と実技どちらも行う研修会であったため、参加者が自分ごととして認識してもらうきっかけとなった。

○ 今後も継続して開催を検討。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	北海道	区分	JA	実施主体名	オホーツク農協青年部
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和6年8月27日			

○ 取組の内容

○オホーツク管内では農協青年部を中心に令和2年から3年間、農作業事故ゼロキャンペーンを展開。キャンペーン終了後もオホーツク農協青年部では、自発的に農作業安全に対する意識付けをおこなっているが、地域や人によってのそれに対する温度差は大きいのが現実。

○オホーツク青年部では定期的に農作業安全意識を高める研修会を継続実施しているが、令和6年度は事故の原因となることが、農業機械側にもあるのではないかとその原因を生産者目線であぶり出してみようということになった。（グループワークにて）

○日頃扱う上で危険と感じていることや改善してほしいことなどを酪農班と畑作班に分かれてグループごとに意見を出し合い、発表を行った。



写真：グループワークの様子



写真：グループワークの様子

○ 取組の効果や今後の課題

○農作業安全の意識が地域や人によって温度差が非常に大きいことが一番の課題であり、このような取り組みを行うことで、低い側の意識を高め、その温度差を解消していく。

○グループワークによる意見

- ・作業機の大型化に伴う死角の増大解消（モニター・ミラー等）
- ・高所作業機の転落防止装備の設置（滑り止め、柵の設置）
- ・ビート移植機のつまり除去作業用の安全装置設置（安全スタンド等）

※ビート移植機では高さを確保した安全スタンド付設した試作機実現

○今後も、日頃危険を感じているようなことを盟友・供給側などに対して、広く共有するよう取り組んでいきたい。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	青森県	区分	都道府県	実施主体名	青森県
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和6年度4月～12月			

○ 取組の内容

令和6年5月に県が主体となり、各地域の普及指導員及び農協の営農指導員向け研修会を開催し、農作業事故体験VRの活用方法や対話型農作業安全研修について学ぶ機会を設けた。

これを受けて各地域では、農業者を対象に、本県で発生が多い乗用型トラクターの転倒事故や、スピードスプレーヤーの挟まれ事故、脚立からの転落事故を主体に、農作業事故体験VRを活用した研修を3回、対話型農作業安全研修を2回開催した。

※回数は延べ



普及指導員及び農協営農指導員向け研修



農業者向け研修

○ 取組の効果や今後の課題

研修に参加した農業者からは、「VR体験によって似たような経験をしたことが思い出され、気が引き締められた」「対話型研修では、日頃感じていた危険な作業を参加者同士で確認し、その対策を学ぶ事ができて参考になった」等の反応が得られ、研修の効果を感じられた。

次年度以降も、研修参加者の農作業安全への関心が高くなるように既存の座学だけでなく、農作業事故体験VRや対話型農作業安全研修を活用していきたいと考えている。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	岩手県	区分	JA	実施主体名	JAいわて中央
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		第1回令和6年6/6、第2回7/30、第3回11/27			

○ 取組の内容

○講習会を通じて機械作業の基本操作と事故のない安全作業を周知する目的で初心者向けで実施することとした。

講習に関してはJAいわて中央管内で年3回（6、7、11月）計42名参加で実施した。

第1、2回では、メーカー講師を招き刈払い機の正しい使い方について資料作成し座学研修（熱中症対策等）、刈払い機、噴霧器操作研修を実施

※VRを使用する疑似体験も実施（刈払い機作業事故）

第3回は、メーカー講師を招き農作業安全取組みについて資料作成し座学研修、また講師に指導をして頂きトラクターを使用する操作体験研修を実施（安全対策をした上）

○ 取組の効果や今後の課題

○講習会終了後にアンケートを実施したところ参加者からは、「理解できた、分かりやすかった」「危険性を知ることが出来た」といった意見がでてきており、次年度以降も講習会を継続していきたいと考えている。

また、次年度は、開催時期や時間、参加者人数、内容についても本年度の反省点を活かして改善していきたいと考えている。



農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	宮城県	区分	都道府県	実施主体名	宮城県
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和5年度8月			

○ 取組の内容

宮城県内における過去10か年の農作業死亡事故をみると、農業機械作業に係る事故が全体の約8割を占めていることから、県では「農業機械の転落・転倒対策」をテーマとした研修を実施することとした。

研修は県内3地域（大崎市、石巻市、岩沼市）で各1回ずつ、合計3回実施し、計356人の参加があった。講師は農機具メーカーに依頼し、事故事例に基づいて安全な農業機械の使用方法について説明をした。加えて、日本農業機械化協会が作成したDVDを用いて農作業事故経験者の話を放映した。

また、国から配布されたステッカーを繰り返し使用できるように、マグネットで貼付けが可能な形に加工し、参加者に配布した。

○ 取組の効果や今後の課題

参加者から、農業機械の安全な運搬方法に関して質問が出るなど、参加者が農作業中に日頃感じていた農業機械に関する疑問を解決することができた。

しかし、令和6年度も農業機械の転落による農作業死亡事故が県内で発生しており、同様の研修を県内各地域で実施し、より多くの農業者に農作業安全に関する情報を提供する必要がある。



研修会の様子

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	秋田県	区分	市町村	実施主体名	大仙市
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和 6 年度 4 月 16 日			

○ 取組の内容

市の新規就農者研修施設において農業機械の操作方法と整備、安全及び農作業安全に関する研修を行う際、研修生のほか一般農業者（特に就農間もない若手農業者と女性農業者）にも呼びかけ、農作業安全に関する研修会を開催した。

市と（株）秋田クボタの連携協定のもと（株）秋田クボタから協力をいただき、トラクタ等の機械操作を含めて農作業全般にわたる安全研修の座学を行い、スマート農業（自動操舵）トラクタを活用した実技研修の 2 部構成で研修会を開催した。



座学研修の様子

○ 取組の効果や今後の課題

新規就農者研修及び農作業が本格的に始まる時期に合わせた研修会開催で、しかも最新機械を用いたことから参加者の関心度が高く、有意義な研修となった。

参加者からは、「機械操作の基本と安全対策を押さえていないと、便利な機械でも重大な事故につながるものが良くわかった」等の声があった。

今後も引き続き農作業安全講習会を開催し、地域の農作業事故防止と安全確保に努めたい。



実技研修の様子

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	山形県	区分	都道府県	実施主体名	山形県
取組の概要		②農作業安全に関する情報発信の取組			
実施時期		R6.5.10、13、14			

○ 取組の内容

山形県では毎年、さくらんぼの作業中に脚立やビニールハウスから転落する事故が発生しているが、今年は昨年比べ早い時期から転落事故が発生していた。

そこで、当初は予定になかったラジオ放送を使い、さくらんぼ作業中に注意にしてほしいこと等について呼びかけを行った。

○ 取組の効果や今後の課題

昨年のさくらんぼ作業終了時期の事故件数と比較すると、今年も同程度だった。

来年度以降も事故が多発した際は、SNSやラジオ等を用い臨時の呼びかけを行っていく。

農作業安全に関する優良事例

都道府県名	福島県	区分	都道府県	実施主体名	福島県、福島県農業機械商業協同組合、全国農業協同組合連合会福島県本部
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和6年度6月			

○ 取組の内容

道路運送車両法の保安基準緩和により、大型特殊免許（農耕車限定）の取得支援の要望が高まったことから、本県では令和2年度から関係機関・団体と連携し、講習会を実施しています。

本講習会は例年、時間の都合から免許取得に特化した内容としておりましたが、令和6年度から内容を見直し、新たに農作業安全研修（※熱中症対策を含む）をカリキュラムに追加しました。

研修資料は、講習会で乗るトラクタを主体としつつ、農林水産省及び農研機構の各種資料、県データ（本県の事故事例等）を盛り込んだ講習会独自の資料を作成・使用しました。

また、合わせて、国及び県の農作業安全に係るチラシとステッカーの配布を行いました。



※講習会の様子

○ 取組の効果や今後の課題

講習会で実際に運転するトラクタを農作業安全研修の内容に多く盛り込むことで、参加者からは「理解しやすい」、「記憶に残りやすい」などの声があった。また、研修会の中で安全キャブ・フレーム及びシートベルトの重要性（国・県事例を踏まえた生存率等）を説明した際に反響が大きかったことから、今後の研修会資料等に反映していきたい。



※研修会で配布した啓発チラシ

農作業安全に関する優良事例

都道府県名	福島県	区分	都道府県	実施主体名	福島県いわき農林事務所 農業振興普及部
取組の概要	②農作業安全に関する情報発信の取組				
実施時期	令和6年度4月～7月				

○ 取組の内容

いわき市内における令和5年度の農作業事故の発生は4件であり、うち死亡事故が2件、重傷事故が2件であった。

また、いわき市内は夏場の気温が平年と比較して上昇傾向にあり、熱中症対策の強化が必要となっていた。

このため、管内ではさらなる農作業事故の発生が懸念されたため、令和6年度から、JA等と連携して、農作業事故防止にかかる注意喚起と啓蒙活動を実施することとした。

JAが主催する指導会等で、農作業安全にかかる資料を配付し、述べ約470名に対して注意喚起を実施した。

また、JAが発行する組合員（9,000戸）向けの回覧に、農繁期の機械操作や熱中症対策等の農作業事故防止にかかる内容を記載し、農作業安全の推進を図った。



死亡事故発生時のSS（梨園地）

5. 農作業安全について

○ 農作業安全運動について注意喚起のお願い！！

毎年、高齢の生産者と経験の浅い新規就農者を中心に農作業事故が発生しております！

いわき市でも、令和5年度には死亡事故2件、重傷事故2件（高齢者3件、新規就農者1件）が発生しています。

安全な農作業機械の利用や熱中症対策の呼びかけをよろしくお願いします！！

JA主催の研修会資料に記載した内容

○ 取組の効果や今後の課題

農作業安全にかかる啓蒙活動や注意喚起を実施した結果、令和6年度における農作業事故発生状況は10月末時点で0件となっている。

引き続き、機械操作や熱中症対策等の注意喚起を実施し、農作業事故の発生防止に努めていく。



指導会で配布した熱中症対策のチラシ

農作業安全に関する優良事例

都道府県名	福島県	区分	市町村	実施主体名	三春町
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和5年度3月15日			

○ 取組の内容

本町では、令和5年度中に2件の事故が発生しました。2件のうち1件は、死亡事故であったこともあり、農繁期に向けて痛ましい事故を未然防ぐことを目的に研修会を開催することとなりました。

農業委員会や中山間地域等直接支払に参加する集落の代表を中心に30名程の参加がありました。

福島県農業総合センター農業短期大学校研修部より専門の方をお招きして研修会を開催しました。

県内の事故発生状況やトラクター・刈払機の事故防止対策に関する内容で実施し、研修会資料に併せて国・県作成の農作業事故防止のチラシを配布しました。



研修会の様子



配布したチラシの一例

○ 取組の効果や今後の課題

出席者からは、「長年農作業をしてきたが、これまで知らなかった安全対策を知ることができた」「研修会を毎年実施しても良いと思う」等の意見がありました。今回は、座学の研修会を開催しましたが、実際に現場で機械を用いた研修等も検討していきたいと思えます。

なお、令和6年度は、現在のところ研修会等は未実施ですが、広報やSNS等を用いて呼びかけをしております。



R6年度 広報誌と共に回覧

農作業安全に関する優良事例

都道府県名	茨城県	区分	都道府県	実施主体名	茨城県 県央農林事務所 笠間地域農業改良普及センター
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和6年7月12日				

○ 取組の内容

新規就農者や就農予定者を対象に、熱中症と農作業安全をテーマとした研修会を開催した。

普及センターでは、事故事例、事故の要因や注意点、熱中症対策についての資料を作成し、受講者に説明を行った。

また、経験豊富な認定農業者にも研修に参加してもらい、皆で農作業中に感じたヒヤリハットを共有する時間を設けた。受講生に、経験を積んだ農業者であっても事故の危険性があることを学ばせ、農作業事故を自分事として捉えてもらい、日頃から安全管理意識を持つことの重要性を周知した。



研修会の様子



普及センターが作成した資料(農作業安全講習～農作業事故実例から対策を考える～)

○ 取組の効果や今後の課題

受講者からは「事故の事例があったおかげで、要因や対策などをより理解できた」「身近な人の事故の話を聞いて慢心せずに対策を行っていききたいと思った」といった意見が多数寄せられた。今後もベテラン農業者を交えたヒヤリハットを話し合う形式の研修会を開催していく。

今回の講座は事故の実例とその要因・対策についての内容であったことから、今後は事故を未然に防ぐための環境づくりとしてGAP等の講座の開催を検討する。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	栃木県	区分	その他	実施主体名	栃木県農作業安全 推進協議会
取組の概要		②農作業安全に関する情報発信の取組			
実施時期		令和6年度7月			

○ 取組の内容

②栃木県では令和6年度に入ってから夏までに、農作業中に5名（うち熱中症によるもの1名）のが亡くなられた。これをうけ毎年7月下旬に開催しているJA主催の県域イベントにおいて、農作業安全啓発活動を行った（農産物等盗難防止対策も併せて実施）。

イベントでは近年本県で発生した農作業事故の説明パネルの展示や農作業安全・熱中症対策・農産物等盗難防止に関するチラシと啓発シールの配布を行った。ヒヤリハット体験と草刈作業に関するアンケートを実施し、回答いただいた方には熱中症対策アイテム（塩入フルーツキャンディー）をプレゼントし、農作業中の休憩、塩分補給などの重要性を合わせて啓発出来た。

○ 取組の効果や今後の課題

多くの農業者に対する啓発活動にはJA関連のイベントがかなり有効であり、集約したアンケート結果は今後の農作業安全啓発に活用できる。

草刈作業アンケートは200名を超える回答を集計した結果、安全確保に対する意識不足（防護アイテムの着用、詰まりの解消時には回転を止めてから作業する必要性等）が見られ、会話の中で改善策を指導することも出来た。

今後は単協や市町イベント等で啓発活動が行えるよう、関係機関との調整を再度行っていく必要がある。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	群馬県	区分	都道府県	実施主体名	群馬県
取組の概要	③ 都道府県・地域単位の推進体制の強化の取組				
実施時期	令和6年7月26日				

○ 取組の内容

農作業の安全確保を理念とし、関係機関・団体等が連携し、積極的に対策を推進することで、農作業死亡事故ゼロを目指すことを目的に、令和3年度より群馬県農作業事故防止・農業機械化推進会議を実施している。

今年度は令和6年7月26日に本会議を開催した。

主に農作業安全推進体制、農作業死亡事故、熱中症対策等について関係機関と協議した。また、農研機構に農作業安全について講演いただくと共に、農作業事故のVR体験を実施した。



熱中症対策で使用した対策ポスター

○ 取組の効果や今後の課題

農作業事故のVR体験については、初めて実施する方も多く、今後の活動の参考になったとの声もあった。

下期の令和7年3月にも、今年度2回目の会議を開催を予定している。

来年度以降も、継続して本会議を開催することで、関係機関との情報共有を図り、農作業事故の防止に努めたい。



農作業事故
VR体験の様子

農作業安全に関する優良事例

都道府県名	埼玉県	区分	その他	実施主体名	埼玉県農業機械化協会 (埼玉県後援)
取組の概要	農業機械実演展示会での農作業安全の推進				
実施時期	令和6年12月5日				

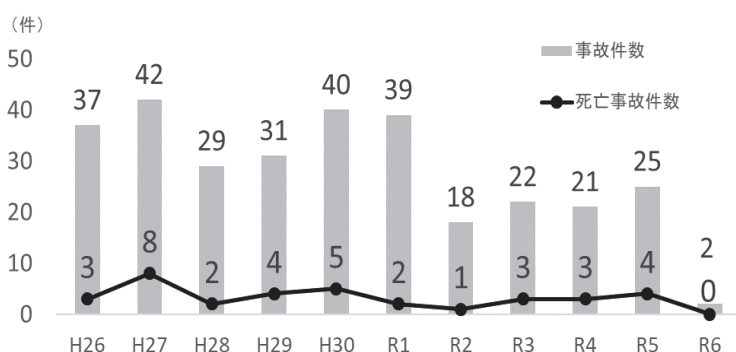
○ 取組の内容

埼玉県の農作業事故件数は減少傾向にあるが、死亡事故が減少しておらず、農業者への更なる注意喚起が必要である。

また、農作業安全に関する研修の実施が少ない地域があるため、広域の農業者を対象にした研修が必要である。

そこで、埼玉県農業機械化協会が実施する農業機械の展示会に併せて①農作業安全に関する講演会、②農作業事故VR体験、③収入保険の説明を行った。

過去10年間の農作業事故件数（平成26年～令和6年3月）



講演会の様子



○ 取組の効果や今後の課題

講演会は、農作業安全の専門家である農研機構の職員に講師を依頼したことで、効果的な注意喚起ができたと思われる。

講演会の参加は50名程度であり、イベントの周知の強化など、参加者を増やす取り組みが必要と考えている。

農作業事故VR体験は、市町村やJA等の関係機関の職員にも実施できたため、普段農業機械を使用しない立場の関係機関の職員が農作業事故の危険性を認識する機会になったと思われる。

農作業安全に関する優良事例

都道府県名	千葉県	区分	都道府県	実施主体名	千葉県、千葉県農業機械士協議会、千葉県多面的機能推進協議会、千葉県農業協同組合中央会
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	毎年2月に実施				

○ 取組の内容

農作業事故減少に向け、安全な農作業に取り組めるよう、水稻の作業が始まる前に農作業安全の重要性と地域の取組について再認識するとともに、農業機械に係る情報について理解を深め、事故防止を図ることを目的とし、研修会を実施。

27年度から、日本型直接支払い制度の活動中における農作業事故対策との連携や、令和2年度以降は、**Youtube**でのオンライン開催とし、参加対象を広げる働きかけをしている。

研修では、近年、県内で発生が多い農作業事故に関連する内容も加え、令和5年度は熱中症対策、令和6年度は農耕機の公道走行についての講義を実施した。



Youtubeチャンネル

○ 取組の効果や今後の課題

令和2年度は427名、令和3年度は522名、令和4年度は539名、令和5年度は535名とオンライン開催に変更したことにより、参加者が増えてきています。

また、参加した農家からは「文字が小さい」、「動画だけでなく資料が欲しい」といった意見が出てきており、次回以降の研修に反映させたいと考えている。



(1) その作業方法、安全ですか? 「事故を防ぐ正しい作業とは」 (令和5年度農作業事故ゼロ推進研修会)

千葉県公式セミナーチャンネル・744回視聴・1か月前

研修内容の一部

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	千葉県	区分	J A	実施主体名	J A ちばみどり
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和6年度 2 月～ 7 月				

○ 取組の内容

千葉県内では、農作業事故によって毎年、10件程度の死亡事故が起こっています。特に農業機械における事故は重大な事故に繋がる為、農繁期前の農機展示会で農作業事故の再認識をして頂き、農繁期の事故防止をおこなう。

【参考】

○農作業中の死亡事故（千葉県内）

内訳	年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1
死亡事故発生件数 (A)		18	14	6	5	10	14
うち農業機械・施設 (B)		13	6	6	4	7	8
(B) / (A)		72	43	100	80	70	57

○事故の内訳及び件数

事故状況	年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1
トラクター等が横転また転落し下敷きになる		7	4	2	1	3	5
機械に巻き込まれる（挟まれる）		4	2	3	3	4	3
他の車両との接触		1	0	0	0	0	0
その他機械による事故		1	0	1	0	0	0
機械によらないもの（熱中症等）		4	4	0	1	3	6
その他（原因不明等）		1	4	0	0	0	0
合計		18	14	6	5	10	14

千葉県内農作業事故発生状況

○ 取組の効果や今後の課題

農機展示会来場者にVRゴーグルを活用した事故疑似体験をしていただき、農作業安全の意識向上を目的とした取組を実施致しました。

農機展示会 VRで事故疑似体験



VR体験をする来場者

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	東京都	区分	都道府県	実施主体名	東京都
取組の概要		農作業安全に関する研修の取り組み			
実施時期		令和6年度5月～10月			

○ 取組の内容

就業者10万人当たりの死亡事故者数は11.1人と増加傾向となっていることを受け、まずは、身近なところに農作業安全に関する指導者が存在する状態を確保していくこととした。

そのために、JA東京中央会と協力し、農林水産研修所つくば館で実施している「農作業安全に関する指導者育成研修」の受講について推進してきた。

○ 取組の効果や今後の課題

受講者数は前年に比べて約4倍となった。

引き続き、農作業安全に関する指導者を増加させるとともに、人材の活用方法について検討していく。

農作業安全に関する優良事例

都道府県名	神奈川県	区分	その他	実施主体名	神奈川県、神奈川県農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会神奈川県本部、全国農業機械商業協同組合
取組の概要	②農作業安全に関する情報発信の取組				
実施時期	令和6年6月13日				

○ 取組の内容

- ・ 例年、営農指導員、普及指導員などを対象に事故の実態や事例に基づいた原因分析と、安全指導を行うためのポイントとノウハウを学び、今後の地域の啓発活動で農作業事故の発生防止につなげるため、農作業安全講習会を開催している。
- ・ 近年、農作業死亡事故に占める熱中症の割合は増加傾向であり、農作業における熱中症対策の重要性が増してきていることを受け、令和6年度は熱中症対策をテーマにオンラインで講習会を開催した。
- ・ 神奈川県環境科学センターより、神奈川県における熱中症の発生状況について、農研機構より、実効的な農作業安全の考え方に基づく熱中症事故防止について講演いただいた。

○ 取組の効果や今後の課題

- ・ 営農指導員、普及指導員などを対象に講習会を行ったことで、県内各地域で熱中症対策研修（既存の会議等に併せて実施したものを含む）が計53回が行われ、受講人数（概算）は1388人であった（令和6年12月時点）。なお、前年度の熱中症対策研修の実施回数は1回、受講人数（概算）は21人であった。
- ・ 今後は、各地域で農作業安全研修を行う上で、より効果的な研修となるよう、営農指導員、普及指導員などを対象に、対話型研修手法について学ぶ講習会の開催を検討している。

農作業安全に関する優良事例

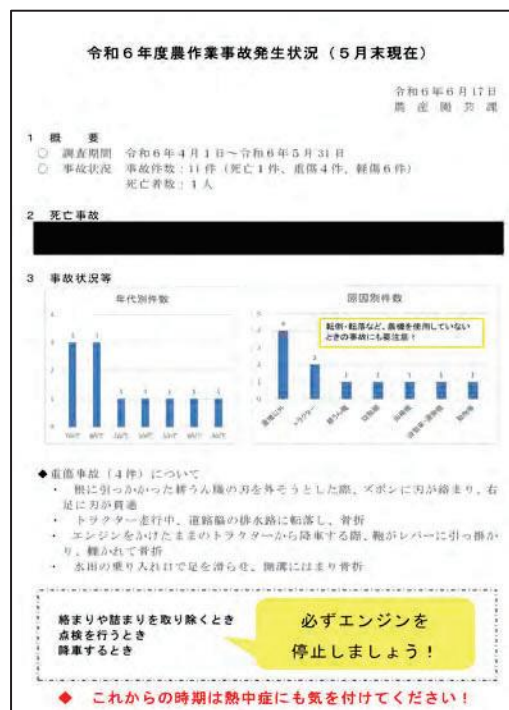
都道府県名	新潟県	区分	都道府県	実施主体名	新潟県
取組の概要	②農作業安全に関する情報発信の取組				
実施時期	年間を通じて実施（年4回情報提供）				

○ 取組の内容

年4回（5月末、8月末、10月末、3月末現在）、各時点での農作業事故発生状況を取りまとめ、関係機関と共有している。

発生した事故の年代別・原因別件数に加え、期間中に発生した死亡・重傷事故の詳細を情報提供している。

情報提供先の関係機関では、会合等での状況共有や研修会での活用、HPへの掲載等を行うなど、農作業安全活動に役立てていただいている。



情報提供内容（例）

○ 取組の効果や今後の課題

今後の展望として、事故情報の発信に加え、事故防止のための情報発信も充実させていきたいと考えている。事故原因については、農研機構でも分析いただいております。そういった情報を生かした情報発信を行っていききたい。

その他の取組と併せ、農作業事故の発生防止に取り組んでいく。



農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	富山県	区分	その他	実施主体名	富山県農業機械化協会
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		1 1 月			

○ 取組の内容

全国農業協同組合連合会や富山県農業機械商業協同組合で組織する富山県農業機械化協会の主催で、県内全域の農業者やＪＡ職員、市町村担当者等を対象とした農作業安全研修会を毎年実施している。

研修では、農作業安全に係る情報提供の他、農業者等が自分ごとと感ずることができるよう、実際に起きた農作業事故の分析による農作業安全対策などの実例を紹介した。

受講者に対しては、経営体内や各地域でも農作業安全対策の意識向上のために、研修会の資料や農林水産省等のＨＰに掲載されているチラシや動画の活用をすすめている。

また、熱中症や軽いけが等の発生時に、被害を最小とするための応急処置方法などの実習を交えた研修を行うなど、内容を工夫している。



○ 取組の効果や今後の課題

本研修の内容を、各地域で実施する農作業安全研修に反映するなどしていることから、研修会開催の効果は高い。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	石川県	区分	都道府県	実施主体名	石川県
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和6年5月～11月			

○ 取組の内容

○大型特殊免許（農耕車限定）の免許取得にかかる研修の一部で農作業安全に関する基礎的な内容を扱った講座を実施している。

令和6年度は7回実施した。

研修では、農林水産省作成のテキスト資材やDVD、調査の取りまとめ結果などを用いて、法令の順守や、乗用トラクタにおける転落・転倒事故への注意喚起を行っている。

○ 取組の効果や今後の課題

○免許試験を受験する農家のみを対象に開講していたが、農作業安全の講座に限り、作業安全に関心の高い農家や、農業分野の教職員など幅広く受け入れられるよう開催方法や申込方法等を検討中。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	福井県	区分	その他	実施主体名	(公社) ふくい農林水産支援センター (共催：ふくい農作業安全推進会議)
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和6年4月1日～令和7年3月31日				

○ 取組の内容

県内では、農作業中の死亡事故者数が、毎年2～4名で推移しており10万人当たりでは全国の平均を上回っている。

このため、支援センターでは、担い手農家を対象に農作業安全に関する研修を集中して開催する「農作業安全教育強化事業(R4～6年)」を実施している。

○令和6年度の主な研修内容

研 修 名	研 修 内 容
農作業安全研修（8，3月）	・ 農作業の安全と熱中症予防対策 ・ 労働安全の基本と労災補償(労働安全コンサルタント)
KY(危険予知)活動リーダー研修（2月）	農作業事故を防ぐ、KYTの考え方・手法を学ぶ
事業者向け安全衛生セミナー(3月)	「雇い入れ時教育」など、雇用主が行う安全衛生教育のポイント・留意点を学ぶ
農作業時の腰痛対策（8月）	農作業時に注意すべき腰痛予防策(労働衛生教育)
刈払機の安全使用に関する研修	・ 初心者向け操作実習(6月)・保守・点検実習(11月) ・ 共同作業等での安全な使い方(3月)
法令に基づく安全衛生教育	・ 刈払機取扱作業者（6、11、3月） ・ 車両系建設機械運転従事者への再教育（2月）

- ・ 6～8月にかけては、研修時に熱中症予防対策を加えて講義している。
- ・ 安全意識を高めるため、「農作業安全研修」受講者にはヘルメットを配布、またすべての研修で、（顔写真入りの）修了カードを発行している。

○ 取組の効果や今後の課題

令和4年～6年12月に、延べ600名の農業者が受講している。受講された農業生産法人などでは、継続して・社内教育として利用されるなど安全意識の高い組織が見られているが、全体の受講者数は減少傾向にある。

農作業安全および研修案内等一層のPR強化が必要と考えている。

また、次年度については、「雇い入れ時の安全衛生教育」等新たな研修を計画している。

農作業安全に関する優良事例

都道府県名	山梨県	区分	都道府県	実施主体名	山梨県農業技術課
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和6年5月～3月				

○ 取組の内容

山梨県では年5回、計200～250人の農業者に対し農作業安全に関する研修を実施している。

研修に関しては、作業が忙しくなる前（5月）に中北地域で、農閑期（11月～12月）に峡東地域、峡南地域、富士東部地域で、春を迎え農作業が本格的に始まる前（2月～3月）に峡東地域で研修を実施した（5回目の研修会については実施予定）

研修では、各地域の実態に応じたトピックを盛り込んだ資料を使用した。

研修以外の取組として、県として独自に啓発チラシを作成し、計62,000部配布した。また、県内を広報車で巡回し、音声による啓発も併せて行った。

○ 取組の効果や今後の課題

前年度の同時期までに実施した研修と比較すると受講者が51人増加した。

受講人数を増やすために、つながりのある農家へ直接参加を促したことが人数増加につながったと考えられる。

また、来年度は課専用の広報機材を調達し、音声による啓発をより多く実施できるよう検討中



農作業安全に関する優良事例

都道府県名	長野県	区分	都道府県	実施主体名	長野県農政部農村振興課
取組の概要	②農作業安全に関する情報発信の取組				
実施時期	令和6年7月19日				

○ 取組の内容

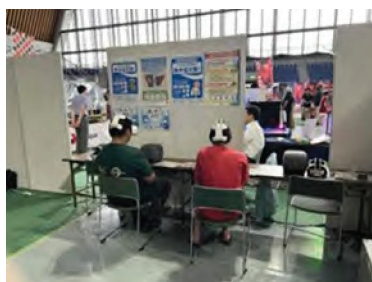
○「JA農機＆資材フェスタ」（長野県後援）にて啓発を実施。ブース内には長野県と県内企業が共同開発した農業機械も設置し、農業者と啓発が遠くならないように対応した。また、啓発資材の活用のほか、JA共済連様からお借りした「農作業事故体験VR」での啓発も行った。

○熱中症対策研修実施強化期間であること、長野県と包括連携協定を結んでいることなどから、今年度は新たに大塚製薬様の協力のもと熱中症対策の講座を開催した。



○ 取組の効果や今後の課題

- 農作業事故体験VRは35名に参加いただいた。
- 国ステッカーや県作成のポケットティッシュ（右）をそれぞれ300～500部配布した。
- 熱中症対策講座には約50名の方にご参加いただいた。講座後は詳細を伺いたい方が10名程度訪れるなど一定の効果があった。



農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	岐阜県	区分	都道府県	実施主体名	岐阜県
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和6年8月～11月			

○ 取組の内容

県内では、農作業中の事故が年平均6件程度発生していることから、農業機械の安全取扱いに関する知識と技能の向上を目的に、令和3年度より下記研修を開催しています。

研修の構成は、①座学（8月）と②実技（9～11月）の2部構成で、毎年約30名の受講者を対象に実施しています。

①座学：農研機構や岐阜県警の職員を講師に迎え、農作業中や公道走行時の事故防止、安全運転に関する知識の習得を目的として実施しています。

②実技：県内の自動車教習所指導官を講師に迎え、大型特殊自動車の公道走行時における安全運転技術習得を目的として実施しています。



写真：座学の様子

○ 取組の効果や今後の課題

座学終了後のアンケートでは、「職場における労働安全について考えるきっかけとなった。」や、「危険な現場について、どうすれば良い環境になるのか？職員同士で考え、良い仕事ができるように取組める研修だと感じた。」など、農作業安全について考える契機になったという反応が見られています。なお、令和3年度から昨年度までに80名が受講しており、そのうち51名が研修後に大型特殊自動車免許試験を受験し、試験に合格しています。

座学が8月下旬に開催するため、水稻農家の繁忙期と重なる点について、研修日程の前倒しを求める意見があり、今後の課題として検討が必要です。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	静岡県	区分	都道府県	実施主体名	静岡県
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和5年度8月～11月			

○ 取組の内容

就業者10万人当たりの死亡事故者数は11.1人と増加傾向であり、県内でも令和4年度に農作業死亡事故が多発したことを受け、GAPに関する研修会の項目の1つとして農作業安全に関する研修を実施することとした。

研修に関しては、各地域（賀茂地区、東部地区、富士地区、中部地区、志太榛原地区、中遠地区、西部地区）において研修を合計9回実施し、142名が参加した。

研修では事故事例を映像を交えて紹介し、事故発生防止のための具体的対応策に関する解説や、熱中症対策、労災保険加入の重要性などについて講義を行った。

○ 取組の効果や今後の課題

研修後にアンケートを実施したところ、参加した農家からは「使ったことのない農業機械については理解が難しかった」「自身が指導する立場になった時にわかりやすく説明できる自信がない」といった意見が出てきており、次回以降の研修に反映させたいと考えている。

また、静岡県では各地の指導者が部会の講習会等と合わせて農作業安全の指導を行っているが、内容がマンネリ化しやすいため、毎年トピックを加えながら危機感を持って取り組んでいきたい。

農作業安全に関する優良事例

都道府県名	愛知県	区分	都道府県	実施主体名	愛知県
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和6年6～7月				

○ 取組の内容

農作業事故情報について、市町村から県農業改良普及課を経由した随時報告と全国共済連東海地区業務センターの協力により情報収集した事故情報により、年間発生件数及び内容の把握を行っている。

情報収集した2023(令和5)年の農作業事故情報について、年齢別や原因別等で分析をして、農作業安全研修資料（パワーポイント）や啓発リーフレットを作成した。

農作業事故は決して 他人事ではありません

■ 2023 年(令和5)農作業事故調査結果（愛知県農業経営課調べ）

1. 2023年1月～2023年12月に発生が確認された事故総数

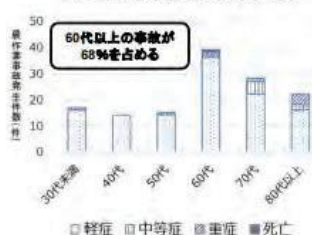
県内で確認できた農作業事故は180件（前年127件）発生しています。
【内訳 死亡：4件、重症：19件、中等症及び軽症：152件、不明：5件】

※農作業事故の区分は、重症が入院3週間以上の事故、中等症が入院3週間未満の事故、軽症が入院無しの事故と整理しています。

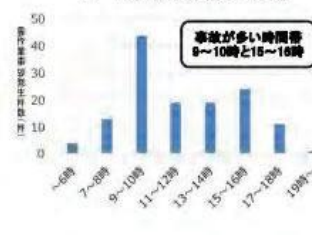
昨年愛知県内で発生した事故事例

年齢	事故の状況
60代	トラクター作業中、用水路に転落。トラクターの下敷きになり死亡。
40代	スピードスプレーヤーが路肩段差に乗り上げ横転、重症。
50代	耕耘機を後進しようとしたところ、足を滑らせ転倒し、耕耘爪に左下肢が挟まり、重症。
60代	耕耘作業中に、スボンがひっかかり耕耘機に右下肢が挟まり、重症。

2. 年齢別農作業事故発生件数



3. 時間帯別事故発生件数



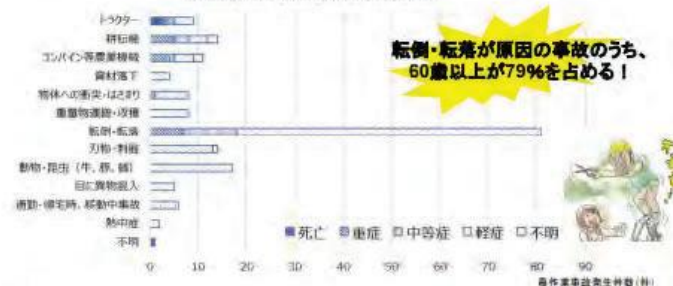
○ 取組の効果や今後の課題

農作業安全研修資料や啓発リーフレットは、各地域の農作業安全講習会等で活用している。（令和6年度愛知県農作業事故ゼロ運動重点対策事業（計画）：講習会347回、7,165人）

研修資料や啓発リーフレットについては、具体的事例を多く挙げるなど、農業者が農作業事故のリスクを自分事として捉えてもらえるような工夫が必要だと考えている。

転倒・転落が原因の 事故が多発！（2023年81件）

事故原因別の発生件数と受傷程度



年齢	転倒・転落が原因の事故の状況
60代	排水路の草刈り中、雨の後だったため足を滑らせて転倒、胸を強打。
70代	柿の収穫中に脚立から足を滑らせて落下。あばら骨11本骨折。
80代	段々畑で作業中、長靴を履いていて落ち葉で滑り、2m下の田んぼに転落。腰椎圧迫骨折等。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	三重県	区分	その他	実施主体名	三重県農業機械化協会
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和6年6月～令和7年2月			

○ 取組の内容

三重県農業機械化協会では、県農業大学校及び運転免許センターと連携し、大型特殊自動車（農耕用）免許講習・試験を毎年開催しており、令和6年度は24回開催し、約380人受講予定である。

講習の中で、実機を用いた農業機械の適切な操作方法に係る研修や農作業安全に関する基礎的な研修を実施した。

研修では、講師間で指導のばらつきがないように共通テキスト（農林水産省作成の資料や独自で作成した資料等）を使用している。

また、夏の期間は熱中症対策チラシを受講者へ配付し、啓発に取り組んでいる。



令和3年度講習の様子

○ 取組の効果や今後の課題

令和2年度のピーク時に比べ、受講者は半減しているが、毎年合格率90%以上を維持している。

年度当初には、前年度の振り返りの場を設け、関係機関で実績や改善点等について話し合いを行っており、当年度の講習・試験に反映している。今後も引き続き、関係機関で連携し、大型特殊自動車（農耕用）免許取得の拡大や農業者の農作業安全意識の向上を図りたい。

農作業安全に関する優良事例

都道府県名	滋賀県	区分	都道府県	実施主体名	滋賀県
取組の概要		②農作業安全に関する情報発信の取組			
実施時期		令和5年度2月～令和6年度5月			

○ 取組の内容

滋賀県では、毎年、全農業集落代表者（約1700人）に対して、農作業事故実態調査を実施し、県内で発生した事故の状況を把握している。

その調査結果を元に、県が実施する「令和6年春の農作業安全月間」の啓発チラシを作成し、県内市町、JA、農業機械商業組合等を通じて、農業者へ約6,000枚を配布した。

チラシには、農作業事故発生件数の他、令和5年に発生した農作業事故の事例を記載することで、農作業事故を自分事と捉えてもらうように工夫した。

また、熱中症に関する注意点や対処法を記載することで、熱中症対策の啓発も行った。



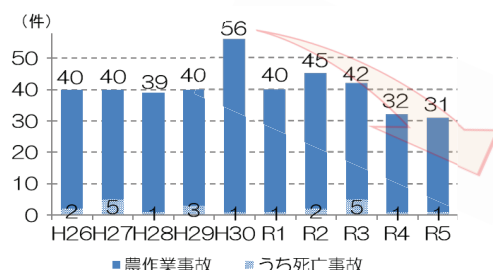
作成・配布した
啓発チラシ

○ 取組の効果や今後の課題

主に農業者等が参加する会議、集会等で農作業安全の話題を取り上げていただき、併せて啓発チラシを配布してもらっている。

滋賀県内で発生した農作業事故件数は減少傾向にあり、引き続き研修等を通じて啓発を続けていく必要があると考えている。

農作業事故実態調査結果を他の啓発資料に生かせないか検討中。



滋賀県内で発生した
農作業事故件数の推移

農作業安全に関する優良事例

都道府県名	京都府	区分	都道府県	実施主体名	京都府
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和6年6月～令和7年3月				

○ 取組の内容

農林水産省の農作業安全運動の取組を京都府全域で実施するために、京都府が京都府農業機械士協議会に農作業安全研修の講師を委託する「農作業事故ゼロ運動推進事業」を平成23年度頃から実施している。

農業者団体や普及センター等の関係団体からの研修要望を機械士協議会と共有し、研修の講師として活動を依頼した。

現時点（12/18）での活動実績は、熱中症対策研修実施強化期間に4回、その他の期間に8回の研修を実施（7市町）、今後も数回の研修を開催予定である。



実際の研修の様子

○ 取組の効果や今後の課題

前年度の同時期に実施した研修と比較すると回数は2回減少したものの、受講者が27人増加した。（昨年度14回144人）

現在、本取組については以下の課題がある。

- ・研修資料及び道具が講師の所有物を使っており、研修内容に差が発生。
- ・講師が協議会員の一部に限られている。

よって年明け以降、研修資料及び道具を統一し、各地域の普及センターに設置することで、研修内容の充実及び講師の拡充を図る予定。

また、来年度以降の取組としては、研修後にアンケートを実施するなど、農業者の声を取り入れる仕組みを検討したい。

農作業安全に関する優良事例

都道府県名	大阪府	区分	都道府県	実施主体名	JAグリーン大阪
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和6年6月～7月			

○ 取組の内容

○グリーン大阪では、近年熱中症による死亡事故が増えていることから、熱中症対策に関する研修を計5回行った。このうち熱中症対策研修実施強化期間に実施された研修は計4回である。JA管内でまとめて1回の開催とせず、管内各地域の会合で10分程度熱中症への対策および注意喚起を実施した。こちらのJA管内は、農家数があまり多くない地域であるが、意欲的に研修に取り組み、研修回数が大阪府内でトップであった。

○ 取組の効果や今後の課題

○JAグリーン大阪における農作業安全研修のR5年度の開催は1回、11名の参加に対し、R6年度は9回、計100名の参加があった。

このことから、JAはもちろん、農業者の安全意識も向上したと考えられる。

今後は、農作業安全の内容ではない研修や会議においても、積極的に農作業や熱中症に関する研修を行い、より農業者の意識を向上させていきたい。

農作業安全に関する優良事例

都道府県名	兵庫県	区分	都道府県	実施主体名	兵庫県農業機械化協会・兵庫県
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和6年3月19日				

○ 取組の内容

農作業安全指導と啓発の機会を一層増加し、農家の安全知識と意識の高揚を図るため、地域の農業リーダー（営農組合、農会等の代表や機械担当者、安全管理者等）を主な対象として、日常活動の中で安全指導ができるよう、農作業安全や安全な機械操作の知識とその指導法について研修した。

本研修は全県を対象としているため、県内各地から計87名の参加があった。研修後は、受講者に修了証を交付した。

研修では、農林水産省が作成した研修資料や、農作業安全に関する意識調査（県調べ）の分析結果等も盛り込んだ資料を用いた座学講習と、農業機械使用時の心構えや指導法について、機種別に実機を用いた講習を行なった。

実際の研修の様子



○ 取組の効果や今後の課題

前年度に開催した同様の研修と比較すると、受講者が27名増加した。

受講者には、本研修で学んだ内容を各所属組織等での指導に活かしてもらうことにより、約700人への波及効果が見込まれる。

農機メーカーとも協力しながら、今後も続けていく。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	奈良県	区分	都道府県	実施主体名	奈良県
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和6年（通年）			

○ 取組の内容

○生産部会に対する栽培講習会や現地巡回指導の際に農業機械の使用上の注意事項や熱中症予防にかかる講習を行い、農作業事故発生防止に向けた注意喚起に努めた。また、ステッカー等の農水省作成の資材を生産者や関係機関に配布し、農作業安全に関する普及啓発を行った。



五條吉野いちご研究会
栽培講習会



宇陀米ブランド化協議会
栽培講習会



小麦現地検討会

○ 取組の効果や今後の課題

○これまで農作業安全に関する情報提供を継続して行うことで、農業者の農作業事故の発生防止に対する意識向上に努めてきた。今後も、身近で発生した事故の発生事例を踏まえた農作業事故発生防止講習会を開催するなど農作業安全に対する啓発に継続して取り組んでいく。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	和歌山県	区分	都道府県	実施主体名	和歌山県
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和6年2月			

○ 取組の内容

和歌山県では農業改良普及事業として、農作業現場の安全性を確保し、安定的な農業生産活動を行うため、農作業現場環境改善の推進及び農作業安全指導の徹底等の取組を地域ぐるみで推進している。主な取組内容として、県内7地域のうち年間1地域を対象に、活動に必要な経費を充て研修を実施している。

令和5年度の取組として、有田地域において女性農業者や5年以内に就農した農業者を対象に、令和6年2月に刈り払い機、脚立使用時の事故防止について、普及指導員が講師となり研修を行った。研修資料として、農水省補助事業により作成された資料や啓発動画を活用した。



○ 取組の効果や今後の課題

上記研修の参加者からは「作業に慣れたことで、油断することもあるので常に気を引き締めたい」等の感想が聞かれ、農作業安全に対する意識の向上が窺えた。

次年度以降も県内地域での農作業安全研修実施を支援するとともに、各地域における農作業安全啓発を促していく予定。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	鳥取県	区分	都道府県	実施主体名	鳥取県
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	6月20日、25日、27日				

○ 取組の内容

熱中症で緊急搬送される件数が増加していることから、鳥取県は、鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会と鳥取産業保健総合支援センターとの共催で、東部・中部・西部の3か所で熱中症対策研修会を開催した。

令和6年度は、雇用管理の点で従業員の熱中症対策を講じる必要性等を、法人や選果場運営担当者等を対象に実施した。

研修内容は①講演：熱中症による労働災害を防ぐために事業主に必要なこと、②対話型の意見交換：熱中症対策の現状と課題、③商品の展示紹介・体験：熱中症対策商品の3点を実施した。



対話型の意見交換



商品の展示紹介・体験

○ 取組の効果や今後の課題

3会場合計で、農業者等112名が参加した。

参加者からは、作業前の点呼や健康状態の確認に取り組みたい、一人仕事が多いのでその対策が必要、職場内での熱中症対策研修会を開催したい、熱中症対策商品（WBGT計等）を導入したい、選果場内での熱中症対策に充電式ファンを導入したい等の意見・反応があった。

今後、各市町村や機関で開催する熱中症対策研修会の企画・開催・取組を支援する。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	島根県	区分	島根県	実施主体名	島根県
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和6年4月～			

○ 取組の内容

島根県では、正しい安全知識を学ぶことを目的として、研修実施強化期間を設定し、農作業安全・熱中症対策に係る「農作業安全に関する指導者」等を講師とした農作業安全に関する研修を開催している。

各農業部で研修の企画・実施を行い、農業者が参加する既存の会議・集会・講習会に農作業安全の要素を付加した形式など地域の実情に応じて開催しており、今年度の推進目標は『研修実施回数を令和5年度よりも増やすこと』としている。



研修会の様子（昨年度の写真）

○ 取組の効果や今後の課題

- ・ 農作業安全研修の実施状況を昨年度と比較すると、開催回数と受講者数が約2倍となる見込み（11月時点）
- ・ 来年度も引き続き各農業部での企画・実施を予定している。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	岡山県	区分	都道府県	実施主体名	岡山県・岡山県農業機械 作業安全運動推進協議会
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和6年8月22日			

○ 取組の内容

全国の農作業中の死亡事故者数が減少している一方で、県内における死亡事故者数はここ数年ほぼ横ばいで推移している。農作業事故の防止に向け、関係機関や団体が連携し、各地域で啓発や研修等の取り組みを強化する必要があるため、市町村、農業団体、農機販売店等の関係団体を対象とした農作業安全研修会を秋の農作業安全運動期間に開催した。

研修では、県から県内の農作業死亡事故の発生状況と対策について説明し、県警本部が啓発チラシや事故事例の紹介を行った。

また、農研機構から講師を招き、県内外の事故事例の紹介と現場での対策、生産者に届く効果的な安全対策として対話型研修の実施方法及び研修ツールの説明や、模擬的な研修を実施した。



研修の様子

○ 取組の効果や今後の課題

県内の事例の紹介と具体的な対策の説明を行ったため、参加者は関心をもって聞いていた。

また、対話型研修の実演を取り入れたことで、参加者が研修のイメージができ実践につながりやすいと感じた。

今後の取組については、事故体験VRを活用した研修の実施など新しい取組を検討中。

農作業安全に関する優良事例

都道府県名	広島県	区分	都道府県	実施主体名	広島県
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和6年度8月			

○ 取組の内容

広島県では、持続可能な農業経営の実践のために、農作業安全研修をGAP基礎研修と併せて開催しています。

研修には各地域から参加があり、県内の生産者が顔を合わせながらの研修となりました。

研修会では、GAPについての研修の後、農作業安全の専門家による、実体験も含めた農業機械の安全対策について説明を受けました。

また、農林水産省が作成した熱中症対策の研修資料の説明では、具体的な質疑応答により、農作業安全の重要性を確認することができました。

令和6年度 広島県

GAP基礎研修会 I

GAPとは、食品安全、環境保全、労働安全、人権・福祉に配慮した労務管理に取り組みなど、「良い農業」につながる取組で、将来にわたって持続的に営農するために必要な取組です。
この研修会では、GAP実践の必要性や、農作業安全への取組にフォーカスした危険回避・リスク管理事例を紹介します。
GAPに取り組んで、持続可能な農業経営に繋がっていきましょう！

会場	日時	場所
東広島	令和6年 8月6日(火) 13:30-16:00	広島県立総合技術研究所 農業技術センター 1階講堂(東広島市八本松町原 6869)

第1部
「GAP実践の必要性について」
講師：NPO 法人がんばる農家のパートナー 理事長 向谷 裕次

第2部
「GAPと農作業安全について～作業安全のヒヤリ・ハットと原因・対応策」
講師：指導農機士・農業機械士 山本農園 山本 一守

申込 令和6年 7月30日(火)まで
FAX またはメールでお申し込みください。
詳細は裏面、県HPをご覧ください。

ご家族、従業員の方も、みんなでご参加ください

【主催】広島県 農林水産局 農業技術課 (TEL 082-513-3585)

○ 取組の効果や今後の課題

【効果】

参加者へは農作業安全の必要性について、理解が高まった。

【課題】

参加人数を増やしていき、より広く農作業安全の必要性を伝えていく。

(5) 講演「農業生産工程管理(GAP)と農作業安全」の満足度						
自由記載	評価	項目	回答数	割合	理由(自由記載)	評価
GAPの内容についてよく理解できた。	4	大変満足	14	41.2%	事例や先生の経験などがとてもためになった。	5
よくわかった (2件)	4	満足	16	47.1%	オペレータがすべてベテランではないので、指導が必要(ボウレンシク)	4
大変ためになりました。	4	普通	4	11.8%	作業に含まれる危険性について見直す機会となった。	4
実例をもとに学べた。	4	やや不満	0	0%	経験の中で理解した。安全管理をする。	5
作業時の安全について深く考える機会になった	5	不満	0	0%	実例に基づいた話がよかった。(2件)	4
継続教育CDPの観点から大変重要なため。	5	無回答	0	0%	労安について現場の話が聞けた。	5
		回答数	34	100%	労働安全衛生に対し農業はユルい。	4
※評価: 大変満足 5、満足 4、普通 3、やや不満 2、不満 1						
平均点: 4.33			平均点: 4.30			

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	山口県	区分	その他	実施主体名	あぶらんど萩 農業振興協議会
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和5年度8月～（継続）				

○ 取組の内容

1 きっかけ

県北部に位置する萩市、阿武町では、就農または法人就業の若い担い手が徐々に増えている。当地域では、これら担い手の水稻栽培技術の向上と担い手同士のつながり強化を目的に研修会を定期的を開催してきた。

令和5年度より、JA農機センター、中四国クボタの協力の下、農作業安全に関する内容を研修会に盛り込んで実施している。



水稻研修会

2 研修内容

研修は、水稻の主要作業が始まる前に行い、年2回開催した。

内容は、農林水産事務所が農水省及び農作業安全情報センターの資料を基に作成した資料により、農業機械の事故事例を紹介するなど、安全啓発を行った。また、JA農機センター職員、中四国クボタ職員が講師を務め、実機を用いた使用前点検や簡易メンテナンスの方法を指導した。

年度	時期	取り上げたテーマ
R5	8月（収穫前）	コンバイン
	2月（春鋤き前）	トラクター、畦塗機
R6	4月（田植前）	田植機
	7月（草刈前）	刈払機、熱中症



コンバインの使用前点検

○ 取組の効果や今後の課題

若い担い手13名を対象に開催し、各回10名程度の参加があった。R5年のアンケート結果によると受講者の7割から「満足」と好評を得ている。

当地域で大きな事故、死亡事故はここ数年発生していないが、来年度以降は、グループワークを通じ、作業中に経験した具体的なヒヤリハットを参加者間で共有するとともに、未然防止につながる研修会の実施を検討している。



担い手によるグループワーク

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	徳島県	区分	都道府県	実施主体名	徳島県、 (一社) 徳島県農業会議
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和 6 年10月30日（水）			

○ 取組の内容

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構の志藤部長を講師に招き「畜産用作業機械の安全使用講習会」を実施した。

講習会の前段に、農作業安全業務を担当する普及指導員を対象に、畜産現場での農作業安全対策の基本知識についてや、「対話型研修」の進め方について事前研修を実施した。

講習会では、普及指導員がコーディネーターとなり、畜産農家を中心とした5～6人程度のグループで「対話型研修」を実施した。畜産農家が実際に体験した作業中での農作業事故やヒヤリハットについて話し合い、事故の原因や対策方法について話し合った。



○ 取組の効果や今後の課題

研修後にアンケートを実施したところ、参加者からは「作業中に気をつけるべき農作業安全上のポイントについて学ぶことができた」や「農作業事故やヒヤリハットについて話し合うことができてよかった」との意見があった。

さらに、「実際の作業現場で農作業安全対策についての研修ができれば」といった意見があり、今後の研修に反映させたいと考えている。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	香川県	区分	都道府県	実施主体名	香川県
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和6年3月			

○ 取組の内容

農業機械の誤操作による事故が散見される中、新たに農業を始める人を対象とした農業機械の安全研修を目的に、香川県立農業大学校において「農業機械（初心者）安全講習」を実施している。

新規就農者や就農に向けて準備をしている社会人研修生等20名が参加し、乗用トラクタや刈払機の安全な取り扱いや操作、セルフメンテナンス等について、対面形式で3日間の講習と演習を行い、正しい知識と技術を身に付け農作業中の事故やトラブルを未然に防ぐ活動を行っている。



ロータリー爪交換の演習



刈払機転倒時の説明

○ 取組の効果や今後の課題

参加者からは、「実際に刈払機のメンテナンスや刃の研ぎ方を見て勉強になった」、「一人で作業していると自己流になってしまった部分もあり、作業手順を振り返り学び直すいい機会になった」など、実際の農業機械を使用しながら学ぶことでより農作業安全意識が向上したと考えている。

また、令和5年度は悪天候により、農場での耕うんの演習ができず、参加者からも残念な声が挙がっていたことを受け、雨天時においても演習を含めた研修内容を見直し、より農業機械に対する正しい知識と操作方法を取得できる研修内容とすることを検討したい。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	愛媛県	区分	J A	実施主体名	JAえひめ南
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和6年度5月・9月				

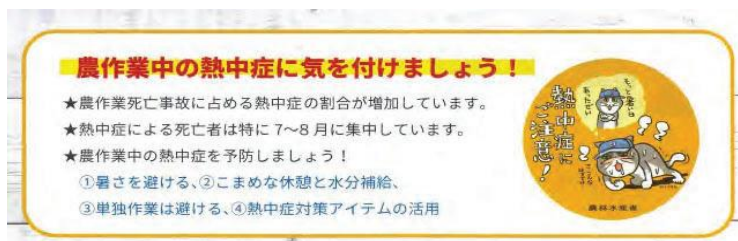
○ 取組の内容

就業者10万人当たりの死亡事故者数は11.1人と増加傾向を受け、JAえひめ南では国の定めた「熱中症対策研修実施強化期間」に則り、年2回、計13人の現場で農業者に周知・指導する農機担当者に対し、農作業安全に関する研修を実施することとした。

研修に関しては熱中症対策研修実施強化期間において研修を1回、農作業事故に関する研修を1回、合計2回実施した。

研修では農林水産省が作成した研修資料を使用した。

また、研修だけでは定着しないと考え、組合広報誌「みなみかぜ」計16,000部にて注意喚起を発信した。



「みなみかぜ8月号」の掲載記事

○ 取組の効果や今後の課題

○今年度は猛暑日が過去最多となり、高齢者の多い当産地では現場での指導や広報誌での注意喚起を実施することにより一定の効果があったと思われる。

広く周知するために、現場で直接農業者と携わる農機担当者を中心に研修会を実施しているが、来年以降の取組については、営農指導員の実施する各種講習会の折に研修の実施も視野に入れて検討中。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	愛媛県	区分	市町村	実施主体名	内子町農林振興課 農村支援センター
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和6年度4月（未受講者は別日に受講）			

○ 取組の内容

○道の駅「内子フレッシュパークからり」直売所の青果物出荷者へ農作業安全講習会を毎年開催。

当該道の駅直売所の青果物出荷者は200名以上登録されている。出荷者でつくる直売所出荷者運営協議会と連携しており、出荷者には毎年の受講を義務づけ、当安全講習会を年に1回受講しなければ出荷停止の厳しいペナルティを設けている。

本来は農薬使用の安全講習が主であり、トレーサビリティ（栽培履歴の記帳）の徹底などを確認する機会であるが、農作業全体の安全講習についても盛り込む形で実施している。そうすることで、受講者は一度の受講でトレーサビリティと農作業安全講習を同時に済ませることができ、指導する側としても年1回を義務づけている講習により全出荷者に受講していただくことが可能となる。

○ 取組の効果や今後の課題

直売所にはJAに出荷していない生産者も多く、JAによる指導の機会が少ない、あるいは全く受けていない可能性がある。そこを農村支援センターが指導役となりカバーすることで、町内でなるべく安全講習受講漏れが発生しないよう務めている。

今後は生産者からのニーズや社会情勢を反映した安全講習会にすることも検討中。熱中症対策については、開催時期が4月と、まだまだ高温にはなっていないため、夏本番まで受講者の意識を継続できるかが課題である。



講習会の資料の一部

農作業安全に関する優良事例

都道府県名	愛媛県	区分	都道府県	実施主体名	愛媛県
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和 6 年10月			

○ 取組の内容

東予地方局農業振興課では、農業機械の取り扱い操作や安全な利用方法を学ぶ機会の少ない女性農業者に対して、農業機械の点検整備等の技術や安全な利用方法を習得する研修を実施した。

研修では、女性農業者11人が参加し、農業機械メーカーの専門家を講師に、トラクターを用いてほ場での走行方法や草刈機の操作方法を学んだ他、それらの機械の点検・整備を習得した。



研修の様子

○ 取組の効果や今後の課題

○研修後に女性農業者に感想を聞いたところ、「トラクターの走行方法が良くわかった。」「普段、学ぶ機会が少ない農業機械の点検・整備を学ぶことが出来て勉強になった。」など好評であったので、今後は別の女性組織への研修も実施していきたいと考えている。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	愛媛県	区分	都道府県	実施主体名	愛媛県
取組の概要	②農作業安全に関する情報発信の取組				
実施時期	令和6年6月～1月				

○ 取組の内容

熱中症対策について

6月の摘果講習会や7月の「1日営農相談会」（4地区）の合計6回、熱中症対策について研修を行った。また、毎月発行している「今月の重要農作業」に熱中症対策のポイントを掲載し、農家へ周知した。

農業機械の安全利用について

7月の1日営農相談や1月の剪定講習会において、農作業事故防止に係る研修を行うとともに、農業機械の安全利用について、農機具メーカーと連携し農業機械の操作実習による研修を行った。

研修では、農林水産省が作成した研修資料を使用した。



研修の様子

○ 取組の効果や今後の課題

今年度、四国中央市内で農作業中に熱中症で死亡した事例が発生したため、来年度は市や農協などの広報誌等を活用しながら啓発活動に取り組む。

また、共済連等と連携し、VRゴーグルを使った農作業事故の疑似体験を活用し農作業事故防止につなげる。

配布したステッカーを車に貼っている農家もあり、良い宣伝効果になっている。



研修の際に実際に配布したアイテム

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	愛媛県	区分	農家	実施主体名	愛媛県
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和6年9月18日			

○ 取組の内容

農作業機械導入による作業の効率化について理解を深めるとともに、農作業事故防止に向けた安全対策の実践を目的として農作業安全研修会を開催した。

研修では、直近3年分の県内で起こった農作業事故の事例を紹介し、事故防止に向けた作業時の安全ポイントについて説明した。

実習では、農機具メーカーを招き、機能性の高い電動農作業機械の紹介や、それらを用いた農作業実習を実施した。

研修後も農作業安全に向けた意識を継続してもらうために、参加者へチェックリストを配布した。



農作業事故の事例を説明



電動農作業機械の紹介

○ 取組の効果や今後の課題

参加者は、電動農作業機械での負担軽減を実感。農作業機械に潜む利用上の危険箇所について理解を深めた。

農作業事故は他産業よりも多い傾向にあり、誰の身に起きてもおかしくない現状であることから、今後も農作業安全について講習会等を通して啓発していく。



農作業実習の様子

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	高知県	区分	都道府県	実施主体名	高知県農業機械協会
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和6年度5月・12月			

○ 取組の内容

平成31年4月に道路運送車両法の運用が見直しをきっかけとして大型特殊免許の取得を希望する農家に対し、農機具メーカーと連携して、大型特殊免許取得機会の拡大や農作業安全に関する講習会を実施することとなった。

集落営農組織の構成員や農業者、農大生などが参加し、実機を用いて危険回避行動や農業機械の適切な操作方法に関する講習に加え、農林水産省が作成した研修資料や県独自で作成した資料により農作業安全に関する講習会を2回実施した。



実際の研修の様子



県独自の資料抜粋

○ 取組の効果や今後の課題

- ・受講者の大型特殊免許の合格率は令和3年度は88.8%、であったが、令和5年度は90.4%と上昇傾向にある。
- ・参加した農家からは「いつもの作業だからと言って油断せずに確認ルールを守る大切さを再認識した」「作業時の声かけや適度に休憩をとる、遅い時間の機械作業は極力しないようにする」といった意見が出され、農作業安全に対する意識が向上した。
- ・今後も「農作業安全に関する指導者」による研修の受講を通じて正しい知識の習得に努める。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	福岡県	区分	都道府県	実施主体名	福岡県
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組 ④労災保険特別加入促進の取組				
実施時期	令和6年2月9日（金）				

○ 取組の内容

- ・ 農作業に対する安全意識を高め、農作業事故防止を図ることを目的として、県内全域の生産者を対象として、毎年1回開催。
- ・ 集落営農法人を中心に関係機関を含め154名が出席。
- ・ 農作業中の事故事例と事故への対策、農業機械の適切な使用方法および労災保険の特別加入制度について、幅広い内容の講演を行った。
- ・ 農作業事故のVR体験ブースを設置し、農作業中のヒヤリハット事例の体験会を実施。
- ・ 農作業安全に係るチラシを配布。啓発活動を実施。

○ 取組の効果や今後の課題

- ・ 研修会後のアンケートでは、実際事故を起こした時の対策や制度等について興味を示している生産者が多く、労災保険の話については今後も取り入れていく考え。
- ・ 県内の農作業中における死亡事故は、10年程前と比較して減少しているが、未だゼロになっていないため、今後とも取り組みを継続していく。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	佐賀県	区分	県	実施主体名	佐賀県
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和5年10月			

○ 取組の内容

○令和4年度に比べて、県内の農作業事故が急増していることを受けて、農業機械を使用することの多い県職員に対して農作業安全対策講習を実施した。

○研修内容は、刈払機、管理機、トラクターの安全な使用方法や点検・注意点について60分程度。

○前半10分座学を行い、後半50分ほど実際の農業機械を用いて研修を行った。

○ 取組の効果や今後の課題

○研修を受講された方の中には、新規採用職員や異動で来た職員もあり、今回の研修は農作業事故防止に十分働きかけられたと思う。

○特に実践研修では、事故の起こりやすい動作や環境について熱心に教えていただき、現場作業で起こりがちな事故について深く知り、ベテランの方でも改めて注意すべき部分を復習できたと思う。

○農業者に対してだけでなく、県や市町、JAなどの普及員や指導員に対する研修の重要性も感じられた。

今後は普及員、指導員に対する農作業安全対策の周知の場も作っていきたい。

農作業安全に関する優良事例

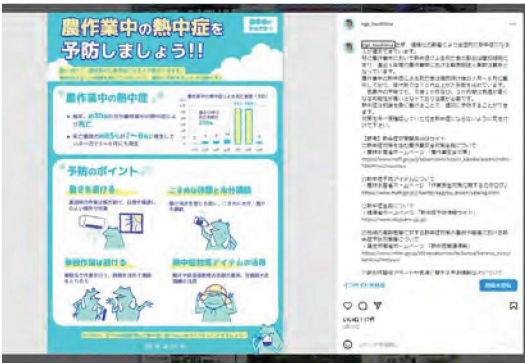
都道府 県名	長崎県	区分	都道府県	実施主体名	長崎県
取組の概要		②農作業安全に関する情報発信の取組			
実施時期		令和6年度5月～6月			

○ 取組の内容

「熱中症対策研修実施強化期間」が今年から設定されたことを踏まえ、令和6年5月に対馬振興局が運営するSNSにて熱中症対策に関する記事を投稿。

また、対馬振興局農林水産部の定期刊行誌（年2回）においても、熱中症対策の記事を掲載。

記事の内容については、農林水産省HPで掲載されている情報やチラシを活用するとともに、URLやQRコードを一緒に掲載した。



振興局Instagramの記事

○ 取組の効果や今後の課題

SNSのフォロワー数や広報誌の発行部数は合計2000件程度。

SNSや広報誌を活用することで、農業者だけではなく他産業や若い人にも目に触れる機会が増えたのではないかと考える。

次年度以降も講習会など直接指導の補完的位置付けで情報発信が出来ればと検討中。

定期刊行誌での掲載記事（中央部）



農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	熊本県	区分	都道府県	実施主体名	熊本県
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和5年9月、令和6年2月			

○ 取組の内容

本県の農作業事故による死亡者数は近年10名程度で推移している。死亡事故を無くするためには農業者だけでなく、市町村、農業関係団体、県の担当者、先進農家の農作業安全担当者の意識を高める必要があると考え、関係者を対象に、農作業安全対策担当者研修会を開催し、農業者への安全啓発の強化を図った。

1回目（9月）はJA共済連熊本県本部へ講師を依頼し、農作業事故対策についてご講義いただいた後、VRゴーグルを用いた農作業事故体験を行った。



VR農作業事故体験の様子

2回目（2月）は農機具メーカーへ講師を依頼し、農作業事故の発生状況と安全対策についてご講義いただいた後、トラクター実機を用いた安全な取扱いとメンテナンスについて実演講習を行った。



実演講習の様子

○ 取組の効果や今後の課題

研修を開催した結果、参加者のアンケートでは「農作業時の事故がこんなに多いとは思っていなかった。農家さんは安全に関する学びの機会が少ないと思うので、もっと広報する必要があると感じた。」、「初めてVRゴーグルを使って農作業事故を体験し、聞くだけでは実感できない作業中の危険点や注意点をより理解しやすかった。」といった意見が出る等、農作業事故を自分事として捉え、農作業安全の意識向上を図ることができた。

今後も、関係機関と連携し、農作業安全の啓発活動を継続する。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	大分県	区分	県	実施主体名	大分県、大分県園芸活性化協議会（共催）
取組の概要		⑥「農業生産現場での暑さ対策セミナー」開催の取組			
実施時期		令和6年5月27日			

○ 取組の内容

- 大分県には、農業関係団体や県警等から構成する大分県農作業安全推進協議会があり、情報共有、連携した取組を行っている。R5年度熱中症への取組についても関係団体と連携して取組を強化していく方針とした。（令和5年9月11日開催）
- R6年度熱中症対策を啓発を目的に研修会を開催。比較的農作業がしやすい4、5月においてもビニールハウス内等で熱中症による事故が発生することから時期を5月とした。
- 研修は、農業関係団体指導員、市町村、県を対象に、大塚製薬及び大分市消防局の講師による座学を行い熱中症予防の機運醸成をはかった。



○ 取組の効果や今後の課題

- 熱中症対策強化期間での実施であり、本格的に暑くなる前に農業関係指導員を中心として意識付けすることにより、現地普及が進んだことは評価できた。
- 今後も関係機関と連携しながら、研修会等の啓発活動を行い、農業現場で指導できる職員を増やす取り組みを継続的に行う必要がある。

農作業安全に関する優良事例

都道府県名	宮崎県	区分	都道府県	実施主体名	宮崎県
取組の概要	②農作業安全に関する情報発信の取組				
実施時期	令和6年3月～5月、9月～10月				

○ 取組の内容

本県では、春（3月～5月）と秋（9月～10月）の農繁期に農作業事故が多くなる傾向にあるため、県農作業安全推進協議会では当期間を「農作業安全確認運動期間」として定め、各種啓発活動等を行い、農業者への安全対策への意識啓発を図っている。

（具体的取組）

- ・ 県庁舎への懸垂幕の掲揚
- ・ ラジオCM放送での安全対策の呼びかけ
- ・ 県ホームページでの啓発
- ・ 農作業安全ポスターの配布、掲示等



秋の農作業安全確認運動期間中のポスター

○ 取組の効果や今後の課題

「農作業安全確認運動期間」を継続的に定めることで、市町村や関係機関等による啓発活動の定着が図られている。

また、農業機械を多く使用する時期であるため、農業者等の安全対策への意識も高く、効果的な啓発活動となっている。

しかし、依然として農作業死亡事故は発生しているため、これまでの取組に加え、農作業安全指導者の育成や農作業安全研修の実施等を強化していくこととしている。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	鹿児島県	区分	その他	実施主体名	いちき特産品振興会
取組の概要		⑥その他			
実施時期		令和6年5月			

○ 取組の内容

鹿児島県では4月に1件の死亡事故が発生しています。農作業事故での死亡者の平均年齢は74.5歳で、65歳以上が全体の8割、80歳以上が全体の4割となっています。いちき特産品振興会に加入している100名を超える農業者は死亡者の平均年齢にあてはまります。事故を起こさないため人数の集まる総会の日に農作業安全講習を実施することにしました。

地域物産館は、高齢農家の生き甲斐の拠り所となっており、年間を通じて各種農産物の取り扱いがある。しかし、会員らは専門的な農作業事故防止の知識や経験をもたず、事故の未然防止の観点から集合形式の研修会を協議会主催で行うこととなった。資料は県、市の実情を反映したオリジナルとし、「日常に潜む危険への気づき」に主眼を置いた内容とした。研修内容はそれぞれが家庭に持ち帰り、身近な方への情報提供、共有ができるよう波及効果をうながした。



○ 取組の効果や今後の課題

農業者の見回り時に、「調子の悪い古い機械を使っていたが、死にたくないから新しいのを買った」や「農作業時間を短くして無理をしないように計画を立てるようになった」など意識が少しでも変わった方や元々気を付けていた方がより意識するようになったなど良い反響もありましたが、一部では何も変わっていないという方もいました。

来年度は複数回実施できるように振興会の方と検討中です。

農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	鹿児島県	区分	都道府県	実施主体名	南薩地域振興局
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和6年7月24日			

○ 取組の内容

南薩地域では、毎年新規就農者が多く、次世代の農業の担い手として重要な存在である。そこで、将来的に安定した経営を行えるよう、新規就農者の経営・生産性向上を図る農業基礎講座を開催している。その一環として、農業機械の基礎知識や農作業安全についての研修を実施している。

農業専門普及指導員が講師となり、新規就農者9名が出席した。農作業安全について、県農業開発総合センターの作成するテキストを活用した説明を行ったほか、トラクタや刈払機等の安全な使用やメンテナンスについて、実際に機械を使用し学ぶ研修を行った。



○ 取組の効果や今後の課題

実際に農業機械を使用する研修であり、受講者は熱心に受講していた。リスクマネジメントの理解が深まったが、農業機械の仕組みなど、より深く農業機械を知りたいという要望が挙げられた。

より新規就農者の農作業安全に対する意識を高められる経営に活かせる研修となるよう、研修内容を随時見直し、今後も新規就農者向けの農作業安全に関する研修を継続していきたい。

農作業安全に関する優良事例

都道府県名	鹿児島県	区分	都道府県	実施主体名	北薩地域振興局
取組の概要	①農作業安全に関する研修の取組				
実施時期	令和6年8月				

○ 取組の内容

鹿児島県内の農作業中死亡事故は13.0人/年。死亡事故ではトラクター事故が多く、傷害事故では刈払機事故が多い。

伊佐地区の水稻栽培講習会（5月，7月）において，農作業安全に関する指導を併せて行っているが，参加者のほとんどは機械習熟度の高い農業者であり，新規就農者の参加率は低い。そこで，新規就農者が参加する栽培講習会に併せて，農作業安全に関する研修を実施することとした。

県内の農作業中の死亡事故発生状況

農作業中の死亡事故発生状況（H25～H4）														（単位：件・人）	
発生年（1月～12月）	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	合計	平均	率		
農作業中死亡事故	14	20	13	14	16	13	5	10	9	16	130	13.0			
農業機械作業による事故	13	15	10	12	11	9	4	10	8	13	105	10.5			
農業機械以外の作業による事故	1	5	3	2	5	4	1	0	1	3	25	2.5			
性別															
男	12	17	12	13	15	12	5	9	6	12	113	11.3			
女	2	3	1	1	1	0	1	0	3	4	17	1.7			
平均年齢	72.1	75.5	74.7	69.4	74.6	66.6	76.2	78.1	72.0	71.6	-	72.3			
65歳以上者に係る事故	10	17	11	10	14	9	4	9	6	11	101	10.1			
うち65歳以上者に係る事故	7	11	8	7	10	6	3	7	5	9	78	7.8			
うち65歳以上者に係る事故	5	9	7	4	5	3	2	6	4	5	50	5.0			

新規就農者が参加する作物栽培研修会に併せて，就農1～5年目の農業者及び指導農業士に対して，農作業安全に関する指導を行った。

県内の農作業死亡事故の発生状況，死亡事故の多いトラクタ及び傷害事故の多い刈払機についての安全対策ポイントを説明した。特に刈払機については，保護具の使用感を触って確かめてもらった。また，シートベルト着用推進リーフレット，熱中症対策リーフレットを配布した。

研修会の様子



○ 取組の効果や今後の課題

農業作業における保護具着用等の安全対策の重要性は認識されていた。しかしながら，適切に保護具を着用していない事例も確認されている。実際の保護具に見て触れて，そして，購入できる場所を周知することで，保護具導入・着用を推進していく。

研修で実際に使用感を体験してもらった保護具一式



農作業安全に関する優良事例

都道府 県名	鹿児島県	区分	J A	実施主体名	J A 北さつま
取組の概要		①農作業安全に関する研修の取組			
実施時期		令和5年4月～令和6年7月			

○ 取組の内容

近年、農作業の死亡事故は、全国で238人（令和4年農林水産省発表）となり、事故区分別にみると農業機械作業に係る事故は152人、農業用施設作業に係る事故は5人、農業機械・施設以外の作業に係る事故は81人であり、機械事故の割合が最も高い割合を占めている。県内においても、労働災害が22件（令和6年9月末時点）発生しており、J A 北さつま管内でも14件（過去3年間）の発生がある。また、夏場の気温上昇による熱中症が多発していることから、農作業安全と熱中症対策を合わせた研修会や啓発活動を実施する事とした。

J A 北さつま		
R4	R5	R6
6件	6件	2件

研修に関しては、令和5年9月・令和6年5月に「さつま地域農業管理センター農作業受託者部会」の支部長会を開催し、県J A 労災事務組合発行のパンフレットを活用した研修会を実施した。他、令和7年1月には、農業管理センター受託者部会員を対象にした研修会を計画している。また、J A 主催による春・夏の農機展示会において、労災保険及び農作業事故に関するパンフレットを来場者に配布した。



○ 取組の効果や今後の課題

昨年5月より再開した農業管理センター支部長会においては、農繁期前という事もあり農作業安全についての活発な意見交換が行われ、認識を再度新たにする機会となった。

その後、開催された懇親会においては、参加した支部長の殆どの方が労災保険に加入されていることから、自らの体験談もあり労災保険の必要性がさらに深まった。また、部会員だけでなく、一般の農家さんも含めた農作業安全に関する研修会を実施してはとの意見も出され、今後の検討事項となった。

（農作業安全はJ A の願いです！）

**労災保険に加入して
農作業安全に近づきましょう！**

事業主の皆様へ
令和6年4月～
雇入れ時の教育が義務化されました

事業主は、新たに人を雇い入れた場合は雇入れ時研修や教育を受ける機会を労働者に提供し、労働者の安全確保につけて努めなければなりません。
雇入れ時研修は、労働者の安全確保のために必要です。ただし、労働者の安全確保に関する研修は、労働者の安全確保のために必要です。
労災保険に加入し、労働者の安全確保のために努めましょう。

J A グループ鹿児島
鹿児島県農林水産部労働安全衛生課

農作業安全に関する優良事例

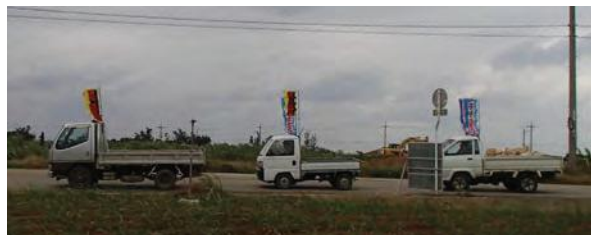
都道府 県名	沖縄県	区分	農家	実施主体名	沖縄県農業機械士協議会 宮古支部
取組の概要		⑤実際の農業現場における取組			
実施時期		令和5年11月24日			

○ 取組の内容

沖縄県農業機械士協議会 宮古支部では、地域内で発生したベテラン農業者のトラクター作業中の死亡事故を受け、毎年さとうきびの製糖開始前に島内巡回パトロールを実施しています。

本取組に賛同する農業機械メーカーを含めた多くの関係機関と協力し、一般農業者等に対し農作業安全に関する意識啓発を図っています。

令和5年度は会員10名、関係機関7名が参加し、各地区のぼりをたてた車両を巡回させ、作業中の農家へチラシを配布しながら農作業安全の呼びかけを行いました。



パトロールの様子



○ 取組の効果や今後の課題

沖縄県はさとうきびが基幹作物となっており、12月～1月頃に製糖期が始まります。この期間中は、多くの大型収穫機械が稼働するため、製糖開始前の農作業安全啓発がより一層重要になります。そのため、本取組は製糖期前の非常に効果的な時期に実施されています。

また、パトロールの様子は地元のテレビ・新聞でも発信され、幅広い農家への周知ができていると考えられます。